

住宅金融公庫建設指導部 監修

住宅金融公庫
融資住宅

木造新築工事共通仕様書並に内訳書

建築主

施工業者

この仕様書及び内訳書の使い方

この仕様書は、住宅資金借受に必要な設計審査申請に添付する仕様書で、図表で表せない個所を補足したものである。

なおこの仕様書は材種その他種々の場合を考慮し共通になっている。

例えば屋根葺材料については、日本瓦、セメント瓦、鉄板葺等を書いてあるから、その内で建築主の希望によつて選定し、適宜添削する。（但し日本瓦と鉄板葺との価額は相当の差がある。従つて建設費の差も出てくるので標準建設費を超過する場合もあるから、施工業者に依頼する場合には相談の上記入すること。）

又この仕様以外の事項がある場合は余白に記入すること。

余白記入について

- 内外仕上表中（ ）は一例であるから、設計が変つた場合は印刷の個所を消して、夫々余白に適宜記入すること。
- 基礎工事中布基礎はコンクリート、石積、煉瓦積等となつてゐるから希望によつて適宜添削すること。
- 本工事の寸法については、審査基準に規定してある寸法以外のもので寸法の変つた場合は、印刷の個所を消し余白に記入すること。
- 屋根葺工事は種々の材種を記入してあるから、希望によつて添削し若し仕様書以外の材種を使用した場合は余白に記入すること。
- 左官工事中テツクス又はボードその他の材料を使用する場合は余白に記入すること。
- 塗装工事の内、外部木部下見板張の防腐塗料は、又はクレオゾート、その他の塗料を仕上表中の項に記入すること。
- その他各工事についても、本仕様書と変つた場合は夫々の項の余白に記入すること。

建設費内訳書について

- 建設費の内訳書は設計審査申請書に添付するには及びません。
- 工事請負契約の場合は設計審査に合格した仕様書及び図面と同一のものを添付すると共に仕様書の末尾の工事内訳書に、夫々記載し請負業者と取交して置くと問題がおこらなくてよろしいです。

目 録

この仕様書及び内訳書の使い方.....	
A 共通仕様書.....	2
I 工事概要.....	2
II 内外部仕上及び附帯設備表.....	2
III 仕様.....	4
1. 一般事項.....	4
2. 土工及び基礎工事.....	4
3. 木工.....	5
4. 屋根葺工事.....	14
5. 左官工事.....	15
6. 建具工事.....	16
7. 塗装工事.....	16
8. 雑工.....	16
9. 排水工事.....	17
10. 電気工事.....	17
11. 水道工事.....	17
B 建設費内訳書.....	18

I 工 事 概 要

施 工 場 所	工 事 種 目	概 要	新 築	棟 坪
	(1) 木造 ^{平家} 二階 ^{平家} 二階 ^{二階} 木骨防火造	葺住宅	床面積	棟坪
	(2) 電 気 設 備		新 設	一 式
	(3) 給 水 設 備		〃	〃
	(4) 排 水 設 備		〃	〃
	(5) 便 槽 設 備		〃	〃

II 内 外 部 仕 上 及 び 附 帯 設 備 表

() 内は仕上程度の書き方の記入例
ですから、設計の変った場合は()内
を消して余白に実施したい仕上を記入
して下さい。

(1) 外 部 仕 上 表

各 部 名 称	仕 上 程 度	備 考
基 礎	(コンクリート打 見えがかりモルタル塗)	床下換気孔
壁	(押縁下見板張 一部ラス下地モルタル塗吹付 <u>ラス下地モルタル塗</u>)	
屋 根	(日本瓦、セメント瓦)	
庇	(亜鉛鉄板)	
樋	(同 上)	

塗装 (鉄 部 油性ペイント塗、樋内部コーラル塗
外部木部 防腐塗料)

(2) 内 部 仕 上 表

室 名 称	床	腰	壁	天 井	摘 要
玄 関	(コンクリート、モルタル塗) (一部縁甲板張)	(巾 木 付 壁 板 張) (共 他)	(漆 喰 塗)	(半縁天井 又は漆喰天井)	
居 室	(畳 敷)(又は床板張)	(漆 喰 塗)	(")	(")	(居間寢室又は長押付)
押 入	(板 張)	(漆喰塗又は荒壁塗の上) 板張	(左 同 様)	(半縁天井)	(中 棚、天 袋 付)
台 所	(拭 土 間 板 張) (コンクリート塗)	(堅 羽 目) (一部モルタル塗)	(漆 喰 塗)	(打 上 天 井)	(コンロ台、床下物入、 流し及び棚、目鏡石付)
便 所	(拭 床 板 張)	(漆 喰 塗) (小便所は堅羽目)	(")	(半縁天井)	(手 洗 器 付) (大 小 便 器 付)
浴 室	(コンクリート打モルタル塗)	(ラス下地モルタル塗)	(堅 板 張 り)	(打 上 天 井)	(目 鏡 石)
縁 側	(縁 甲 板)	(漆 喰 塗)	(漆 喰 塗)	(半縁天井)	

(3) 附 帯 設 備 表

室 名	電 氣 設 備			給 水 設 備	(排 水 設 備)	(備 考)
	電 灯	ス イ ッ チ	コ ン セ ン ト			
玄 関	(1 灯)					
居 室	(各 室 1 灯)					
台 所	(1 灯)					
便 所	(1 灯)					
浴 室	(1 灯)					

Ⅲ 仕 様

1. 一 般 事 項

1. 工 事 範 囲

本仕様書及び図面の示す範囲とする。但し下記工事は含まない。

2. 材 料 其 他

敷地造成工事、門塀工事、屋外電気工事、屋外給排水工事、瓦斯工事、造園工事、浴槽
各工事用材料で日本規格（J E S）の制定あるものは総べてこの規格による。材料の寸法及
び工法は現場の納り、若しくは取合の関係により多少これを変更する場合も請負金額を増減
しない。

3. 別途工事との関連

一部工事を別途に附する場合はその請負人と常に連絡し工事完成に支障のない様処理する。

4. 養 生

居室廻り柱及び床板は適当な材料で所要の期間中養生する。

5. 注 意 事 項

イ、特記のない事項でも構造上及施工上必要な場合は注文者の指示を受けて施工する。この
場合請負金額は変更しない。

ロ、現場火気に関しては特に注意する。

2. 木 工 及 び 基 礎 工 事

水 盛 遣 形

配置図により縄張をなと建物の位置を定め、遣形は図面に倣い正確堅牢に取設け、常にその
調査を行い不整な箇所は直ちに修正する。

根 伐

遣形に従い巾、深さ等正確に根伐し、必要ある場合は法を付け又は土留柵を設ける。

割 栗 地 形

割栗石は硬質のものとし図面に倣い柱立に張込み、目潰砂利を敷き大蛸にて搦固めとする。
割栗石の代用として玉石、コンクリート塊等使用差支えない。

基礎コンクリートその他

調合は容積比にて 1 : 3 : 6 とし空練、水練共充分練合せ、打込は空隙のないよう搗締め
る。打込終了後は直射日光、寒気、風雨等をさけるため藁等を以て養生をする。煉瓦積、石積、
ブロック積の目地モルタルは調合 1 : 2 とし、敷トロ、注トロ、空隙のないよう、入念に施し植
込ボルト個所は埋込充分に取り注トロ入念に注込むものとする。植込ボルト径 13 mm
(4 分) は位置正確にコンクリート中に埋込み露出部はコールタール塗とする。

埋戻し地均し

根伐土の内良土を使用し、埋戻し厚さ 30cm (1 尺) 内外毎に蛸等にて搗固める。
建物周囲 1m (3.3 尺) まで地均しをする。

3. 木 工 専

材 料

木材は総べて充分乾燥せる良質材にして見掛材は一等、見えがくれ材は二等以上、雑作材は
一等上小節以上とする。

規格は昭和24年8月20日農林省告示「用材規格規程」による。

仕 上 程 度

見掛りは総べて上鉋仕上とする。

金物及楔、込栓

釘長は特記ない限り木厚の2倍半以上のものを使用する。

鋸は部材の大きさに応じて市場出来合品を使用する。

ボルトは径 13mm (4 分) とする。楔、込栓は充分乾燥せる堅木を使用する。

軸 組 寸法欄の上の数字は耗で () 内は寸です。

名 称	材 種 ・ 寸 法	接 手 仕 口 そ の 他	余 白 欄
(1) 土 台	ひば又はひのき 100mm ×100mm(3.3寸×3.3寸)	接手は柱及植込ボルト位置をさけ腰掛蟻接、隅角仕口は襖 輪入小根柢打抜割枚締め、丁字取合部は大入蟻掛、土台締付 用ボルト埋込長は18cm (6寸) 以上、間隔は 2.7m(9 尺)。	

(2) 火打土台	杉 45×90 (1.5×3.0)	内外とする。
(3) 柱	杉 100×100 (3.3×3.3)	傾き入大釘2本打とする。
(4) 胴差	杉又は松	上下枅差錠又は栓打、隅柱下は扇枅差し錠打又は大釘打とする。但し土台端との取合は蟻落とする。
(5) 間柱	杉 40×45 (1.3×1.5)	接手は梁の位置を避け追掛大栓、柱取合は傾き大入れ短枅、短冊金物又は錠打、隅は傾き大入れ、打抜枅込栓打又は短冊金物ボルト締め。
(6) 軒桁	杉又は松	上下短枅差し、釘打。筋違当りは切欠き、釘打。通貫当りは添付釘打とする。
(7) 間仕切桁	杉 100×100 (3.3×3.3)	軒桁松接手は柱及梁位置を避け追掛大栓2本打。
		接手は柱位置を避け且つ梁を受ける柱間をさけ腰掛蟻接、釘打。
		柱に取合部は柱に傾き入短枅差し錠打
		十字型、丁字型取合部上端平坦なる場合は腰掛蟻接上端錠打。
		平坦ならざる場合の丁字型部は渡腮手違ひ錠打。
(8) 筋違	杉 30×100 (1.0×3.3)	両端斜胴付木半分ビンクに欠込釘打、間当りは間柱を欠込釘打。
(9) 火打梁	杉 90×90 (3.0×3.0)	桁其他上端に乘せかけの場合は斜ビンクを欠き乗せかけボルト締め横面に取合の場合は傾き枅差しボルト締め。
(10) 通し貫、内法貫	杉 15×105 (0.5×3.5)	柱に差し通し楔かけ釘打。

和 式 小 屋

(1) 小 屋 梁	松 張間 1.80m—末口105mm (6 尺—末口 3.5 寸) 〃 2.70m—末口 120 (9 尺—末口 4 寸) 〃 3.60m—末口 150 (12 尺—末口 5 寸)	軒桁との取合は兜蟻掛羽子板ボルト締め。 接手は受材上で台持接ボルト2本締め末口 135mm(4寸5分) 以下のものは受材上で遣違何れも受材との取合は渡腮に仕掛け手違鉋打。
(2) 束	杉 90×90 (4.0×3.0)	上部長柄大打、下部短柄差鉋打。
(3) 小 屋 筋 違	〃 15×105 (0.5×3.5)	取合材に添付釘打。
(4) 棟 木 母 屋	〃 90× 90 90 (3.0×3.0)	接手は束位置を避け腰掛蟻接接手鉋打。
(5) 槌	〃 40×45 (1.3×1.5)	母屋上端にて殺ぎ接ぎ釘打。

床 組

(1) 大 引	杉 90×90 (3.0×3.0)	接手は腰掛蟻縫釘打、土台との取合は腰掛又は乗掛釘打、柱との取合は添木取付乗かけ釘打。
(2) 根 太 掛	〃 15×100 (0.5×3.3)	接手は柱真にて突付接、木当り添付け大釘2本打。
(3) 根 太	杉又は松 40×45 (1.3×1.5)	接手は受材真で突付接ぎ、大引に置渡し大釘脳天打。
(4) 束	90×90 (3.0×3.0)	上部は短柄縫釘打、下部は切付根搦を釘で取付ける。
(5) 梁 (二階床)	松 張間 2.70m~120×180 (9 尺~4.0×6.0) 3.60m~120×240 (12 尺~0.40×0.80)	胴差に取合は迂り腮ボルト締、通し柱に取合はかたぎ大入、短柄差し羽子板ボルト締。

(6) 火 打 梁	松又杉 90×90 (3.0×3.0)	胴差に取合は斜に渡掛ボールド締。梁の取合は大入れ斜短納差ボールド締。
(7) 根 太 掛	松又杉 30×90 (1.0×3.0)	柱に欠込胴着大釘打。
(8) 根 太	3.5 ニツ割	梁に大入れ上端ビンタ大釘打。

屋根野地その他

(1) 鼻 隠	杉 1.5×105 (0.5×3.5)	接手は受材真で突着接釘打破風板彫込木当り釘打。
(2) 破 風 板	〃 25×15 (0.8×5.0)	母屋桁当り釘打。
(3) 広小舞、登り淀	〃 15×105 (0.5×3.5)	接手は鼻隠の接手位置を避け相欠き接、隅は大留野地板着は相欠り釘打。
(4) 面 戸 板	〃 厚 7 (0.23)	極間に切込釘打。
(5) 野 地 板	松又杉 厚 9 (0.3)	接手は極真で突着釘打約 10 枚毎に乱接見えがかり廻り又又は相欠り。

敷居、鴨居、無目、その他

(1) 敷 居 鴨 居	敷居 松 40×100 鴨居 杉 (1.3×3.3)	建具溝彫り。 雨がかかり部分は、水返し、段決りをなし、両端内側胴着とし外部より柱に欠込み、掬込み、忍び釘打。 畳添えの敷居は一方短納差し、他方摺込横栓打、中間に楔飼
-------------	---	--

(2) 一 と 筋	杉 40×54 (1.3×1.8)	釘打。
(3) 附鴨居、疊寄	〃 30×40 (1.0×1.2)	無目、鴨居等は一方短枘差し又は目違入れ、他端摺込み釘打。 溝彫をなし取合材に添付釘打。
(4) 方 立	〃 40×90 (1.3×3.0)	柱間に切込み忍び釘打。
(5) 釣 束	〃 100×100 (3.3×3.3)	上下短枘差し忍び釘打。
(6) 内 法 長 押	〃 18×30×90 (0.6×1.0×3.0)	下部は寄付蟻釘打、椽桁の類との取合は長枘差込栓打。 隅々襟輪留各柱当り襟輪欠き釘彫をなし忍び釘打。

床 板 張

(1) 疊 下 床 板	松又は杉 厚 12 巾 180 内外 (厚0.4巾6.0内外)	傍突付け、接手は受材真で突着根太当り釘打。
(2) 拭 い 床 板	〃 厚 15 巾 6.0 内外 (厚0.5巾180内外)	傍合決り、接手は受材真で相決り乱接、敷居付は小穴入れ根太当りかくし釘打。
(3) 椽 甲 板 張	檜 厚 18 巾 105 (厚 0.6 巾 3.5)	傍実矧椽甲面とり、接手は受材真で目違入れ、乱接、敷居付は小穴入れ根太当りかくし釘打。
(4) 二重床板張	下地 (松又は杉) 厚 9 巾 180 内外 (厚0.3巾180内外) 土張 (檜) 厚 13 巾 105 (厚0.6巾3.5)	下地板は材料工法共疊下床板の項により板と板との中間にアスファルト、フェルトを敷詰め、上張板は材料工法共椽甲板張の項による。

天 井 板 張

(1) 天井廻り縁	杉 40×45 (1.3×1.5)	柱当り襟輪欠込、隅は襟輪留釘打。
-----------	----------------------	------------------

(2) 竿縁天井張	竿縁 (杉) 24×30 (0.8×1.0) 天井板(杉) 厚 7×240 以上) (厚0.23×8.0以上)	竿縁端は廻縁に彫込取付天井張立後裏棧より縫釘打。	
(3) 打上天井板張	杉 12×90 (0.4×3.0)	傍相決りとし野縁にかくし釘打。	
(4) 野 縁	松又は杉 40×43 (1.3×1.4)	打上天井及び漆喰塗天井の野縁は間隔 450 mm(1 尺 5 寸)	
(5) 釣 木	杉 24×30 (0.8×1.0)	内外、竿縁天井の野縁は間隔 900 mm (3 尺) 内外。	
(6) 釣 木 受	〃 末口 70 (2.3) 丸太	間隔 900mm (3 尺) 内外に配置、棧に片蟻釘打ち釣木受には添付釘打。	
		間隔 900mm (3 尺) 内外に配置、小屋梁には馴梁欠きをして乗せかけ大釘打。	

羽 目 板 張

(1) 胴 縁	杉 15×100 の二つ割 (0.5×3.3)の二つ割	羽目板の下地は 450 mm (1 尺 5 寸) 内外に配置。	
(2) 堅羽目板張	〃 厚 12 (0.4)	傍相決りとし胴縁当りにかくし釘打とする。	
(3) 笠木、巾木	〃 笠木 40×45 (1.3×1.5) 巾木 24×90 (0.8×3.0)	柱間に切合せ、摺込、要所隠より釘打。	

~~押縁、見切縁、その他~~

(1) 押縁下見板張	杉 厚 7 (0.23) 押縁 24×30 (0.8×1.0)	板は傍掛り 25 mm (8 分) 間内外に巾割り合せ、板接手は突着け羽重ね下毎に木当り釘打、打縁の接手は羽重ね位置で段接、上下は切付、両端及び下見板 2 枚おき毎に羽重ね下で釘打。
(2) 見切縁	18×75 (0.6×2.5) 45×45 (1.5×1.5) 	接手は隠目遠接、出隅は大留、入隅は襟輪入れ、柱間柱に釘打。
(3) 雨押	12×90 (0.4×3.0)	接手は突着接、隅は大留め、土台に添付釘打。

階 段

(1) 側 桁	松又は杉	柱に添付隠にて大釘打。
(2) 段板踏込板	"	蹴込板は段板に上部小穴入れ下部は添付け。 蹴込板、段板共側桁に大入れ、裏面より楔飼い止釘打とする

壁 塗 下 地

(1) 土壁塗下地		左官工事の木舞掻の項による。
(2) 漆喰塗地 木摺下地	杉 36×7 (1.2×.23)	木摺の接手は受材真にて突着け 10 枚毎に乱接ぎ 8mm (2 分 5 厘) 内外の目透に 2 木当り本宛釘打。
(3) モルタル塗地 下	松又は杉 板厚 9 (0.3)	下地板を 30mm 釘 (1 寸) 内外の目透しに釘打の上、外部壁にはアスファルトルーフィングを用い重なり 30mm (1 寸) 以上としワイヤーラスを取付る。ワイヤーラスは太さ 20 番以上

		厚さ 9 mm(3 分) 以上網目 32 mm (1 寸 1 分) 以下のものを用い、上下左右 300 mm (1 尺) 以内にステーブルで留付ける。 軒裏には坪当り重量 300 ㏍目内外のメタルラスを使用する。
--	--	--

底

(1) 檼 底	腕	木	杉	45×75 (1.5×2.5)	柱に下げ鎌柄差し枚締め釘打。
	出	桁	"	45×75 (1.5×2.5)	腕木に渡腮掛に釘打。
	檼	掛	"	24×105 (0.8×3.5)	檼彫をなし柱に欠き込み釘打。
	広小	舞	"	12×75 (0.4×2.5)	傍板決りをなし隅は大留檼に添付釘打。
	底	板	"	厚 12 (0.4)	傍相決釘打。
	雨	押	"	12×90 (0.4×3.0)	底板、柱に添付釘打。
(2) 板 底	腕木	出桁	杉	45×75 (1.5×2.5)	前頁同様。
	板	掛	"	24×90 (0.8×3.0)	柱に欠込み釘打。
	底	板	"	厚 15 (0.5)	板掛、出桁に添付釘打。
	鼻	搦	"	24×30 (0.8×1.0)	板底に添付釘打。
	破風	板	"	厚 12 (0.4)	板底傍及び出桁、板掛に添付釘打。
	雨	押	"	12×90 (0.4×3.0)	目板に乗せかけ柱に添付釘打。

(3)	持送	杉	厚 ¹⁸ (0.6)	柱に添付釘打。	
眉庇	庇板	〃	厚 ¹⁵ (0.5)	持送り及び鴨居に乗せかけて釘打。	

戸袋その他

(1)	妻板	杉	厚 ²⁴ (0.8)	柱付は太柄植込み、一と筋は欠込み何れも忍び釘打。	
戸	長押	〃	18×105 (0.6×3.5)	両端妻板に差込。	
袋	天板	〃	厚 ²¹ (0.7)	妻板その他取合材に釘打。	
	羽目	〃	厚 ⁹ (0.3)	目板は面取り、板は妻板間割合せ胴縁に釘打、板周囲は小穴入れとする。	
(2)	根太掛	杉	24×105 (0.8×3.5)	取合材に添付。	
押	根太	〃	40×45 (1.3×1.5)	根太掛に根太彫をなし釘打。	
入	棚板	〃	厚 ¹² (0.4)	板傍相決り又は辻双根太に釘打、雑巾摺を打廻す。	
(3)	框	杉	45×75 (1.5×2.5)	隅は柄打板割楔締柱着は柄差し。	
植	方杖	〃	45×45 (1.5×1.5)	框及び柱に傾き柄差し釘打。	
木	手摺	〃	40×45 (1.3×1.5)	隅は相欠き組合せ、柱に柄差し釘打。	
棚	手摺子	〃	30×30 (1.0×1.0)	上下柄差し釘打。	

4. 屋根葺工事

1. 下葺
(イ) こけ板
~~(ロ) 杉皮葺~~
~~(ハ) アスファルト~~
~~フル~~
~~ファイナ~~
2. 谷樋
3. 日本瓦葺
(日本瓦型セメント瓦を含む)
4. 厚型石綿スレート瓦葺
5. 亜鉛鉄板葺
(イ) 一文字葺
~~(ロ) 瓦檜葺~~
6. 雨樋
(イ) 材料
(ロ) 軒樋
(ハ) 堅樋

屋根下葺にはこけら板、杉皮、アスファルトルーフィングのうち何れが用いる。

こけら板は長さ、240mm (8寸) (棟覆板は 400mm (1 尺 3 寸) 内外、軒先は二枚重ね棟覆は二枚重ね馬乗掛け葺足 80mm (2 寸 7 分) 内外一足あき (二枚目) 毎に胴釘及小羽根釘打。

~~軒先は切板を用い二枚重ね葺足は皮長さの 45% 内外各葺足毎に押縁当釘打、其の他は前項に準ずる。~~

~~接手は縦横共 60mm (2 寸) 内外重ね合せ、接手通間隔 300mm (1 尺) 内外其の他は点々キヤブを当て釘打とする。~~

樋板は厚 28 番亜鉛鉄板を使用し、谷板は接手こはぜ掛両耳谷縁着は水返し折とし釣止めとする。

留付は引掛棧瓦は瓦棧に引掛け登り 3 枚目毎に釘打軒先、ケラバ二列の瓦谷縁瓦は一枚毎に釘打ち又は鉄線繋ぎのし瓦棟瓦は一枚置きに鉄線二條鬼瓦は鉄線四條づゝで繋結する。

~~留付は一枚毎に瓦の釘穴に應じ釘 2 本以上打、棟覆は一枚毎に細鉄線二條宛にて繋結する。~~

亜鉛鉄板は厚を 30 # 使用する。

葺板は 610mm × 450mm (2 尺 × 1 尺 5 寸) 以内の切板、こはぜの掛け代は 15mm (5 分) 内外軒先及けらばの通付子は『型、軒先は 20mm (7 分) 程度、けらばは 15mm (5 分) 拮出し、接手は重ね掛け 250mm (8 寸) 内外間に釘打。

葺板一枚に付釣子 4 個にて留付壁着は受板に沿ひ雨押下げ迄立上げ釘打。

~~平葺板は両耳を瓦棒、品板等の上迄立上げ、小口は長さ 50mm (1 寸 6 分) 内外の鑿形を嵌め釘打とし、包板は接手を平葺板と間違ひ、こはぜ掛け釣子留め両耳を平葺板と掴合せにする。~~

亜鉛鉄板は厚 28# を使用する。

接手出隅入隅共 30mm 以上かさねかけ銅鉄にてかしめ接手鉄頭はんだづけ、両耳は穴捲とする。小口せき板は樋と 10mm 以上摺みに仕合わせはんだづけ又はしぼりに仕上げるものとする。

はぎめはこはぜかけ接手重ねは 30mm 以上さし込みはぎめ接目共はんだづけ、各受金物毎

(ニ) 呼 樋

(ホ) 樋受金物

(ヘ) コールター
ル塗

に下り止め2個はんだづけ。

角形の場合ははぎ目 10mm 内外折曲げ重ねかけ上部は軒樋の両耳につかみかけ銅ねじ鉄止め、下部は堅樋の円形にならい 60mm 以上さし込み。

軒樋の受金物は γ 型とし亜鉛メッキ細鉄線二條にて搦付け固定する。

堅樋の受金は蝶番式とする。

樋内面はコールター塗とする。

5. 左 官 工 事

1. モルタル塗

砂は有害物を含まないものを用い、水は清浄にして塩分その他有害物を含まないものを使用する。セメント砂の調合比は容積比にして、1:3とする。

壁の塗付は三回塗とし、下地は清掃の上水濡めし、下塗は荒し目を付ける。

鉄網張下地の場合は網目潰し塗をなし其の面に 15mm (5分) 以上塗掛け刷毛引仕上げとする。

床コンクリートの上塗はコンクリート打立後直ちにモルタルを塗り掛け滑かに仕上げる。

~~2. 木 舞 掻 き~~

~~間渡竹は篠竹丸使い、又は真竹割使い、堅横共柱貫等の際より約 60mm (2寸) 透し間渡 300mm (1尺) 間内外とし両端は彫込み貫当り釘打にする。~~

~~木舞は堅横共真竹、又は篠竹何れも割り使い素縄にて間渡竹に搦付にする。塗込貫は鋸に割り荒しを附し上部は桁類に彫込み通し貫当りは打付にする。~~

~~3. 土 壁 塗~~

~~壁土は良土 (荒木田の類) とし、下塗、裏返し塗用は藁苧混入した練置のもの、貫伏せ、斑直し及び中塗用は簀漉の上砂及び藁苧を適量混入した練置のものとする。~~

~~下塗後直ちに藁撫をなし裏返しは戸袋裏を塗り漆喰下塗仕上とする。貫伏には適当な繊維質のものを塗込み、斑直しは地斑なく鋟押をなし、中塗はちり廻り正しくする。~~

~~大津壁土塗は貝灰黄土、川土苧を適当に混合したものにする。~~

~~砂ものの塗仕上げは予め見本を以て施主と打合せの上決定する。~~

4. 漆 喰 塗

上塗用の石灰、貝灰は、上灰とし、他は並灰とする。

のりは角又の類とし、苧及び下げ苧は上質のものを使用する。

なお下げ苧は 500mm (1尺6寸) 内外二つ折として釘に結付け 400mm (1尺3寸) 間内外に千鳥に打付け斑直しに2回に塗込みとする。

木摺下地の漆喰塗は4回塗、塗付厚は 18mm (6分) 内外とする。

下塗は下地によく摺込み、斑直しは地斑なく、中塗にちり廻り正しく、上塗は下塗の乾燥程度を見計り鍔押充分にする。

6. 建 具 工 事

1. 材 料
2. 仕 口 そ の 他

材料は一等無節、乾燥材にして、割れ等の欠点などないものを使用する。
紙貼障紙以外の各建具の上下框及び主要なる横棧は堅框に納打抜割楔締にし、その他は深柄差にする。杢の枚数は厚 33mm (1 寸 1 分) 以上は 2 枚、30mm (1 寸) 以下は 1 枚杢とする。雨戸の間合框は印箆決り。

鏡板類は周り小穴入れ、雨戸の板等は堅框にかたぎ入上下框に決掛け、雨戸の戸板は敷目板入れとする。

組立及び廻付には糊で仕付ける。

3. 建 具 金 物

建具に必要な附属品は特記するものを除き蝶番捻締り、握り類及底車、レール等はすべて金属製品とする。

4. 板 硝 子
5. 襖

並厚とし指定の個所は艶消とする。

下地骨は太骨にして横子は 11 本以上、堅子は一間 2 枚建は 3 本以上、その他もこの割合に準じて燧板及び引手板付とする。

下貼は機械漉紙 3 遍以上、上貼は新鳥の子程度以上のものを使用する。

見えがくれ個所は無地かたつや紙とし上貼は見本により決定をうけるものとする。

化粧縁は中花塗程度、かさね縁は分増付 4 枚建召合せ縁は定規縁付隅目違入、折合釘にて留めつける。

6. 戸 襖

紙貼下骨は襖同様としベニヤ板は周囲縁に小穴入れ力骨当り銅釘打とする。

7. 塗 装 工 事

1. 防 腐 剤 塗

木部がコンクリート類に接する箇所はクレオソート塗とし、外部下見板は防腐塗料を斑なき様塗布する。

2. 油性ペイント塗

ペイントは調合ペイントとし色合は見本により決定をうける。

塗装箇所は鉄部及母屋小口等、木部は油性ペイント二回塗り、鉄部は錆落しをなし防錆塗料を塗布した後一回塗りとする。

8. 雑 工 事

1. 棚 類

棚板は厚さ 15mm (5 分) 受木で取付ける。

2. コンロ台及流し

台の甲板は相決り、枠は枳差に組固め、甲板上端は亜鉛鉄板張、流の枠は枳差して組固めとし、流しは側底共厚 30mm (1 寸) 位の鉄線入コンクリート見え掛り人造石塗り研出とし、木製枠組上に据付ける。

流しの排水樋は亜鉛鉄板製を取付ける。

3. 畳 工 事

床は 2 等品以上を使用する。

表は麻糸引通しの一等品を、縁は光輝縁とする。

4. 便 槽 そ の 他

便槽の多槽式はコンクリート造、排便管は釉かけ陶管とし、槽内防水モルタル塗り、汲取口 (マンホール) は市場出来合鋳鉄製又はコンクリート製とする。

大小便器及び手洗器は白色陶製中等品以上とする。

下須瓶式は大便所廻り床下まで耐水性布基礎とし下須瓶の大きさは二荷以上釉かけ陶瓶とし瓶の周囲防水モルタル塗とする。汲取口はコンクリート製市場出来合品を据付けるものとする。

木製枠組とし裏面に亜鉛めつき鉄線網を押縁留め、又は鋳鉄製市場出来合品。

5. 床 下 換 気 孔

堅樋の下部にはコンクリート製樋石を据付けること。

6. 樋 受 石

7. 目 鏡 石

浴室及び炊事場に取設ける目鏡石はコンクリート製又は軟石製の市場出来合品を壁体に据付けるものとする。

9. 排 水 工 事

1. 排 水 管

排水管は釉かけ陶管とし、亀裂欠損其の他使用上に欠点のないものを使用する。

基礎は底面所要の勾配をつけ、根伐をなし搗締める。陶管の接手にはモルタルを飼込み、なお鍰口元には太い目塗をする。

2. 溜 枳

基礎は割栗又は砂利地業を施し、溜枳主体はコンクリート又は煉瓦製、若しくは適當なる市販品とし内面及び外部見えがり面にはモルタル塗とする。

註：排水工事は溜枳まで施工するものとする。

10. 電 氣 工 事

電気工作物規定並びに配電会社規定により工事を施工する。なお施工範囲は引込箇所までとする。

11. 水 道 工 事

都市町村水道條例に基き施工するものとする。施工範囲は量水器までとする。

建設費内訳書

木 造 平二平二 家階建 葺 棟 坪
木骨防水造 家階

一金

也

内 訳 (坪當)

名 称	称 呼	金 額	備 考
1. 仮 設 工 事	1 式	円	
2. 土工及び基礎工事	/		
3. 木 工 事	/		
4. 屋 根 葺 工 事	/		
5. 左 官 工 事	/		
6. 建 具 工 事	/		
7. 鋳 工 事	/		
8. 塗 装 工 事	/		
9. 雑 工 事	/		
10. 排 水 工 事	/		
11. 電 氣 工 事	/		
12. 給 水 工 事	/		
13. 材 料 運 搬 費	/		
14. 諸 経 費	/		
合 計			

内 訳 明 細 書

名 称	摘 要	称 呼	数 量	単 価	金 額	備 考
1. 仮 設 工 事 水 盛 遣 形 生 養 計		式 /	1 1			
2. 土木及基礎工事 根 埋 戻 地 伐 均 石 利 栗 砂 コ ン ク リ ー ト 枿 仮 計		式 / 米 立 / 式	1 1 1			材料、手間共 便槽を含む
3. 木 工 事 木 釘 手 及 金 材 物 間 計	(大工及手元共)	石 式 坪	1			
3. 屋 根 葺 工 事 土 居 葺 瓦 計		坪 /				材料手間共

10. 床下換気孔 目鏡受石 計		/						
10. 排水工事 溜土 計		個式	1					
11. 電気工事		式	1					
12. 給水工事		/	1					
13. 材料運搬費		//	1					
14. 諸経費		/	1					
総計								
坪当								

住宅金融公庫 木造新築工事共通仕様書並に内訳書
融資住宅

【頒價二十五圓】（改訂版）

東京都中央区日本橋久松町 25

住 宅 金 融 懇 談 会 編

東京都千代田区内幸町 国税廳ビル

財團法人 大藏財務協会 印 行

振替 東京 87283 番